

## 児童館を利用した放課後児童クラブにおける利用室と活動の関係からみた分析

児童館 放課後児童クラブ  
実態調査 子どもの居場所づくり

準会員 ○中田 朋幸\*  
正会員 細田 智久\*\*

### 1. 研究の背景・目的

我国では、共働きで子どもを育てる若い夫婦の増加に伴い、児童の放課後や土曜日の過ごし方が問われている。地域の子どもの見守る力が減少していく中で、若い夫婦が安心して仕事と育児を両立できる男女共生社会に向けて、放課後・週末の安全で良質な児童の居場所づくりの必要性が高まっている。こうした中で学童保育は、平成10年4月から厚生労働省の放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）として法制化され、実施されている（表1）。平成25年5月時点の全国での設置箇所は21,482ヶ所で、鳥取県では138ヶ所、そのうち児童館を利用しているものが6ヶ所である（表2）。

児童館は児童福祉法第40条に基づき、子どもや家庭を支援するために建てられた施設であるが、近年自治体によっては廃止される動きもある。また、前述の放課後児童クラブ（以下クラブ）も実施場所は余裕教室やプレハブ室も散見される。こうした中で、鳥取県では児童館という比較的大きなスペースでクラブを行っている事例が見られた。

そこで、本研究では鳥取県西部の3児童館への実態調査によって、児童館を利用したクラブでの利用室と活動内容の関係性を明らかにすることを目的としている。この結果はクラブの利用拠点の拡充や児童館施設の有効活用に向けた知見につながると考えている。

### 2. 研究方法

①対象児童館の選定 県の福祉保健部子育て応援課より基礎資料などを提供してもらい、児童館を活用し、登録児童数が多い3児童館を調査対象として選定した。

②ヒアリング調査 3児童館には平成25年5月から6月にかけて訪問し、ヒアリングシートをもとにスタッフに対して、施設概要や運営についてのヒアリングを行った。

③プロット調査 児童の活動場所と活動内容を15分おきに平面図に書き込むプロット調査を各施設2回ずつ行った。平成25年8月に長期休暇における調査を行い、9月に平日の放課後における調査を行った。

④利用室と活動内容の分析 プロット調査結果について、活動内容を分類し、各施設の各室において、どのような活動がどの程度行われているかを集計し比較・分析を行った。

### 3. ヒアリング調査に基づく施設概要と運営の考察

3施設ともに児童館と放課後児童クラブの運営を並行して行っている（表3）。

表1 児童館と放課後児童クラブの概要

	児童館	放課後児童クラブ（学童保育）
諸官省庁	厚生労働省	厚生労働省
法的位置づけ	児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設	児童福祉法第6条の2第2項に規定された社会福祉事業
目的	児童の健全な遊び場の確保、健康増進、情操を高めることを目的としている。	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生へ放課後の生活の場を提供し、保育を行う。
対象	すべての児童（18歳未満）	共働き家庭の児童（小学校おおむね1～3年生）
実施主体	・都道府県 ・指定都市 ・市町村 ・社会福祉法人 等	・市町村 ・社会福祉法人 ・父母会 ・運営委員会 等

表2 鳥取県における放課後児童クラブの活動場所の状況

	東部	中部	西部	合計
小学校余裕教室	22	8	15	45
小学校専用施設	12		12	24
公民館	5	2	1	8
保育園	1	1	5	7
幼稚園	1	1	4	6
児童センター		6		6
児童館		2	4	6
専用施設	5			5
民間施設	2		3	5
交流センター	3			3
コミュニティ施設		3		3
ふれあい会館		2	1	3
集会所		2	1	3
公民館専用施設	2			2
青年会館	1		1	2
子育て支援センター	1		1	2
老人憩いの家	1			1
文化センター		1		1
役場			1	1
その他		2	3	5
合計	56	30	52	138

（ヶ所）

①A 児童館（図1） RC造平屋建であり、竣工してから約10年の比較的新しい施設である。クラブのみを月額制としており、自由来館の児童とクラブの児童をわけて扱う。クラブの登録児童は平日21名、長期38名である。

②H 児童館（図2） 鉄骨造平屋建であり、竣工してから約35年の比較的古い施設である。児童館とクラブの両方を月額制にすることで、児童館の児童とクラブの児童を同じように扱う。クラブの登録児童数は55名と多い。

③K 児童館（図3） 木造平屋建であり、竣工してから約50年の古い施設である。平日はクラブの運営のみを行い、土曜日のみ児童館としての運営を行う。クラブの登録児童数は55名と多い。

④3施設の比較・考察 3施設とも構造は異なるが平屋建となっている。H児童館の月額制、K児童館の曜日別運営から、H児童館とK児童館は児童館本来の18歳以下を広く支援する運営が出来ていないと言える。児童一人当たりの床面積（便所等含む）は、A児童館が約16㎡、H児童館が約4㎡、K児童館が約3㎡となっており、A児童館がのびのびと遊べる環境であることが分かる。最大スタッフ人数と登録児童数から、スタッフ一人当たりの児童数は3施設とも10人程度となっていることが分かる。

### 4. 活動内容の分類（表4）

プロット調査の結果を踏まえて、活動内容の分類を行った（表4）。まず、行われた活動を小分類として全てリスト

表 3 3 施設の概要表

		A 児童館	H 児童館	K 児童館	
施設概要	所在地	鳥取県西伯郡大山町	鳥取県西伯郡日吉津村	鳥取県米子市車尾	
	建設年	2002 年	1979 年	1964 年	
	構造	RC 造平屋建	鉄骨造平屋建	木造平屋建	
児童館	建築面積	737 ㎡	390 ㎡	162 ㎡	
	開館日	平日、長期休暇	平日、土曜、長期休暇	平日、土曜、長期休暇 ※自由来館:土曜のみ可	
	開館時間	平日 8:30~17:00 土曜 休館 長期休暇 8:30~17:00	平日 9:30~18:00 土曜 8:30~18:00 " "	平日 13:00~17:30 土曜 " " 長期休暇 8:30~17:30	
運営※ 児童クラブ	スタッフ人数	3 名	9 名	2 名	
	登録児童数	44 名	100 名	登録制なし	
	費用	無料	3000 円 (月額)	無料	
	開設日	平日、土曜(月 1)、 長期休暇	平日、土曜、長期休暇	平日、長期休暇	
	開館時間	平日 放課後~18:00 土曜 第 3) 8:00~18:00 長期休暇 8:00~18:00	平日 9:30~18:00 土曜 8:30~18:00 " "	平日 14:00~18:00 長期休暇 8:30~18:00	
	スタッフ人数	4 名	9 名	3 名	
	登録児童数	平日 21 名 長期休暇 38 名	55 名	55 名	
	対象年齢	小学校 1~4 年生 障害児)小学校 6 年まで	小学校 1~3 年生 障害児)小学校 6 年まで	小学校 1~3 年生	
	費用	3000 円/月 8 月)5000 円 夏季 5000 円 冬季 1500 円 春季 1000 円 保険料 800 円/年	3000 円/月	3500 円/月 延長料 500 円 (17:00~18:00) 学級費 1000 円 保険料 800 円/年	
	送迎	小学校から児童館までのバス有り	障害児を小学校へ迎えに行く	なし	
調査概要	最大スタッフ数(見守り時)	4 名	9 名	5 名	
	調査日	ヒアリング 2013/5/15 プロット(長期休暇) 2013/8/21 プロット(放課後) 2013/9/18 プロット(長期休暇) 8:00~18:00	ヒアリング 2013/5/17 プロット(長期休暇) 2013/8/23 プロット(放課後) 2013/9/17 プロット(長期休暇) 8:30~18:00	ヒアリング 2013/6/7 プロット(長期休暇) 2013/8/19 プロット(放課後) 2013/9/19 プロット(長期休暇) 8:30~18:00	
	調査時間	プロット(放課後) 15:30~18:00	プロット(放課後) 16:00~18:00	プロット(放課後) 15:30~18:00	
	備考	・人権交流センターと併設されている。			
		・児童館とクラブに登録児童の重複がある。		・児童館とクラブに登録児童の重複がある。	

H児童館：登録児童数が多く、小学校に隣接している



平面図 1:400



外観：鉄骨造平屋建



遊戯室：球技、遊具に利用



図書室：読書、食事に利用



集会所：DVD鑑賞、読書に利用

図 2 H 児童館の平面計画

A児童館：建設年が新しく、人権交流センターと併設されている



平面図 1:500



外観：RC造平屋建



遊戯室：球技、会話に利用



図書室：ブロック、読書に利用



研修室：勉強、食事に利用

図 1 A 児童館の平面計画

K児童館：建設年が古い施設を利用し、小学校に隣接している



平面図 1:250



外観：木造平屋建



遊戯室：玩具、会話に利用



図書室：会話、玩具に利用



会議室：勉強、食事に利用

図 3 K 児童館の平面計画

アップし、それらを静的な活動(以下静活動)と動的な活動(以下動活動)に大別して大分類とした。さらに、動的・静的活動の小分類をまとめて15の中分類とした。6章では、この中分類をもとに集計および分析を行った。

表4 活動内容の分類

大分類	中分類	小分類
静的	①会話	会話、休憩
	②勉強	勉強、宿題
	③絵	お絵かき、ぬりえ、写し描き
	④読書	本、マンガ、読み聞かせ
	⑤工作	折り紙、ダンボール
	⑥ブロック	レゴ、ラキュー 等
	⑦玩具	積み木、ままごと、スポンジブロック 等
	⑧BG: ボードゲーム	将棋、オセロ、人生ゲーム、チェス 等
	⑨CG: カードゲーム	トランプ、ウノ、かるた、百人一首 等
	⑩食事	おやつ、お弁当
	⑪DVD鑑賞	
	⑫ピアノ	
動的	⑬遊具	一輪車、なわとび、竹馬 等
	⑭球技	フリスビー、バドミントン 等
	⑮かけっこ	鬼ごっこ、競争、けんけんは 等
未分類		移動中、荷物

5. プロット調査における各児童館の利用児童数(表5)

表5の数値は、プロット調査時の利用児童数であり、男児・女児の合計、男児のみ、女児のみのそれぞれの場合で最も多かった時の人数を示している。

平日放課後と長期休暇の間で、児童数が大きく変化しているのはK児童館で、その差は8人である。男女で大きな差があるのは、A児童館の放課後と、H児童館とK児童館の長期休暇である。各児童館とも登録児童数に対して利用児童数が少ないことが分かるが、A児童館の放課後については登録児童数より利用児童数の方が多く、自由来館の児童が利用していることが分かる。

表5. プロット調査時の各児童館における利用児童数(人)

放課後	最大利用児童数	A児童館		H児童館		K児童館	
		男	女	男	女	男	女
	23	7	17	21	20	17	20
男児数	7	7	17	21	20	17	20
女児数	17	7	17	21	20	17	20
長期	最大利用児童数	25	47	29	19	19	11
男児数	12	12	47	29	19	19	11
女児数	13	13	47	29	19	11	11

6. 利用室と活動の関係から見た分析

6-1 分析の概要

各児童館の各室において、活動内容の中分類ごとに、児童数を男女別で集計した。集計は、放課後と長期休暇のそれぞれで行い、調査開始時から調査終了時まで15分おきにプロットしたものの合計となっている。

6-2 利用室と活動の関係

A児童館 ①放課後(表6) 主に利用しているのは5室である。最も利用されているのは多目的利用室+研修室であり、女児の利用が多く、行われている主な活動は勉強である。次に利用されているのは遊戯室であり、女児の利用が多く、行われている主な活動は球技である。

表6 A児童館:放課後における利用室と活動の関係 (人)

活動	遊戯		エントランス		図書		研+多目		創作+ホ		その他		小計	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
①会話													23	116
②勉強													48	
③絵													5	
④読書			2	2	1	2							9	
⑤工作					1	5							6	
⑥ブロック					7	5							7	
⑦玩具														
⑧BG														
⑨CG														
⑩食事							6	12					18	
⑪DVD鑑賞														
⑫ピアノ														
⑬遊具		2											2	
⑭球技	6	19											25	
⑮かけっこ														
未分類													6	
小計	6	28	3	2	1	20	18	27	6	12				27
合計	34	21	31	45	18	12								116

②長期休暇(表7) 主に利用しているのは4室である。最も利用されているのは図書室であり、男児の利用が多

く、行われている主な活動はブロックと工作である。次に利用されているのは遊戯室であり、女児の利用が多く、行われている主な活動は会話と球技である。

表7 A児童館:長期休暇における利用室と活動の関係(人)

活動	遊戯		エントランス		図書		研+多目		創作+ホ		その他		小計	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
①会話	8	39	17	10	22	26							122	601
②勉強							46	50					96	
③絵	1				10	6							19	
④読書			23	21	19	26							89	
⑤工作			1		21	34							56	
⑥ブロック					55	29							84	
⑦玩具	2	9			2	2							13	
⑧BG					22	2							24	
⑨CG						3							3	
⑩食事			1				42	50					93	
⑪DVD鑑賞														
⑫ピアノ														
⑬遊具	46	2											2	
⑭球技		59											105	
⑮かけっこ	13	33											46	
未分類													15	
小計	70	142	46	32	155	133	90	101						288
合計	212	78	288	191										601

③放課後と長期休暇の比較(図4) 放課後に対して長期休暇の利用は、遊戯室は約6.2倍、エントランスは約3.7倍、図書室は約9.2倍、研修+多目的室は約4.2倍に増加している。図書室は行える活動の種類が多いため、長時間過ごす場合に利用が増えると考えられる。創作+ボランティア室が平日のみ利用されるのは、ここでクラブの児童のみにおやつを提供しているためである。放課後と長期休暇ともに、静活動と動活動が約4:1の比率で行われており、A児童館は平日、長期休暇を通して児童の活動が比較的变化していないことが分かる。

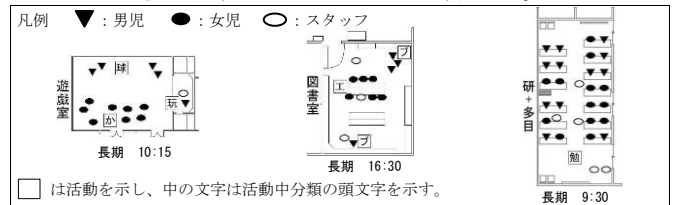


図4 A児童館のプロット代表例

H児童館 ①放課後(表8) 主に利用しているのは3室である。最も利用されているのは集会室1であり、女児の利用が多く、行われている主な活動は食事である。次に利用されているのは図書室であり、男女の利用が同数で、行われている主な活動は勉強とブロックである。

表8 H児童館:放課後における利用室と活動の関係 (人)

活動	遊戯		図書		集会1		ままごと		その他		小計	合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
①会話					2	1	2			2	2	9	177
②勉強			8	20	13	4						45	
③絵			1	2		5						8	
④読書					9	10						19	
⑤工作													
⑥ブロック			19	7								26	
⑦玩具													
⑧BG			9	4								13	
⑨CG					3							3	
⑩食事							18	32				50	
⑪DVD鑑賞													
⑫ピアノ													
⑬遊具	3	4										7	
⑭球技	6	3										9	
⑮かけっこ													
未分類			1		2	3						6	
小計	9	11	38	38	43	56			2	4			16
合計	20	76	99	56					4	4			177

②長期休暇(表9) 主に利用しているのは4室である。最も利用されているのは図書室であり、女児の利用が多く、行われている主な活動は読書と食事である。次に利用されているのは集会室であり、女児の利用が多く、行われている主な活動はDVD鑑賞である。

③放課後と長期休暇の比較(図5) 放課後に対して長期休暇の利用は、遊戯室は約3.6倍、図書室は約8.3倍、集会室1は約5.0倍に増加している。A児童館と同様に、行える活動の種類が多い図書室や集会室の利用が増えてい

表 9 H 児童館:長期休暇における利用室と活動の関係(人)

活動	遊戯		図書		集会		ままごと		その他		小計	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
①余話	1		5	18	7	13			1	3	8	56
②勉強			12	21	11	7						51
③絵			5	58								63
④読書			64	93	10	42						209
⑤工作				3	3	1						7
⑥ブロック			63	59		1						123
⑦玩具		2		14	11	18	1	3				49
⑧読			48	14	17	8						87
⑨読				19	1	49						69
⑩食事			47	79								126
⑪DVD鑑賞					151	136						287
⑫ピアノ		7										7
⑬遊具		20										20
⑭球技	42											42
⑮かけっこ												
未分類			7		3	9						19
小計	43	29	251	378	214	284	1	4	3	8		
合計	72		629	498			5		11			

る。図書室の利用が最も増えているのは、床座で活動を行えるスペースがあり、ブロックや読書などの活動が行えるためと考えられる。放課後は静活動と動活動が約 11:1 なのに対し、長期休暇は約 18:1 である。H 児童館は長期休暇において児童の活動が比較的穏やかになっており、DVD 鑑賞や読書がその主要因である。

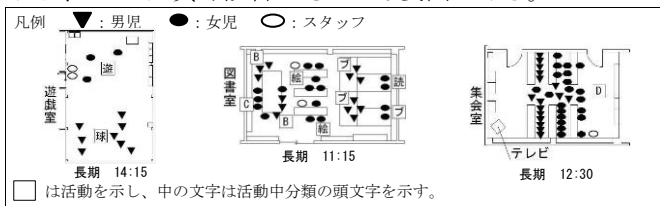


図 5 H 児童館のプロット代表例

K 児童館 ①放課後(表 10) 主に利用しているのは 3 室である。最も利用されているのは会議室であり、男児の利用が多く、行われている主な活動は勉強と食事である。次に利用されているのは遊戯室であり、男女の利用がほぼ同数で、行われている主な活動は遊具と読書である。

表 10 K 児童館: 放課後における利用室と活動の関係(人)

活動	遊戯		図書		会議		その他		小計	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女		
①余話			4	13					18	
②勉強					24	17			41	
③絵									5	
④読書	5								5	
⑤工作					1	5			6	
⑥ブロック					1				1	
⑦玩具	4		1	3					8	
⑧読					2	2			4	
⑨読					33	4			37	
⑩食事		1				20			21	
⑪DVD鑑賞										
⑫ピアノ							1		1	
⑬遊具	3	12					2		17	
⑭球技										
⑮かけっこ										
未分類					1				1	
小計	12	13	5	16	62	51	1	2	133	
合計	25		21		113		3			

②長期休暇(表 11) 主に利用しているのは 3 室である。最も利用されているのは会議室であり、男児の利用が多く、行われている主な活動は勉強と食事である。次に利用されているのは遊戯室であり、男児の利用が多く、行われている主な活動は玩具と会話である。

③放課後と長期休暇の比較(図 6) 放課後に対して長期休暇の利用は、遊戯室は約 7.6 倍、図書室は約 3.0 倍、会議室は約 5.0 倍に増加している。A・H 児童館とは異なり、行える活動が多いわけではないが、遊戯室の利用が増えている。床座で会話や読書を行えることが、その主要因だと考えられる。放課後は静活動と動活動が約 8:1 の比率で行われているのに対し、長期休暇は約 60:1 である。このことから、K 児童館は長期休暇において

表 11 K 児童館: 長期休暇における利用室と活動の関係(人)

活動	遊戯		図書		会議		その他		小計	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女		
①余話	41	5	13	36	17	13			125	
②勉強	3				48	34			82	
③絵					17	9			26	
④読書	27	11			8	2			48	
⑤工作						15			15	
⑥ブロック					47				47	
⑦玩具	64	4		12	31	12			123	
⑧読	5	1			40	37			83	
⑨読	15	1			3	15			34	
⑩食事					131	56			187	
⑪DVD鑑賞										
⑫ピアノ						17			17	
⑬遊具										
⑭球技					11				11	
⑮かけっこ										
未分類					2				2	
小計	158	33	15	48	347	218	3	1	756	
合計	191		63		565		4			

児童の活動が穏やかになっていることが分かる。これは、施設が狭く、館内で動的な活動を行うことが困難であることが要因になっていると考えられる。

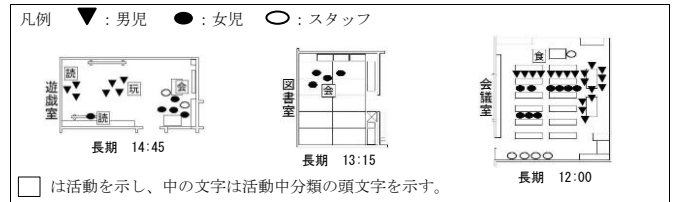


図 6 K 児童館のプロット代表例

6-3 3 施設の比較・考察 3 施設とも 3 室以上を利用する。A・H 児童館は遊戯室に動活動が集中し、それ以外の室で静活動が行われる傾向があるが、K 児童館は遊戯室でも静活動が多く見られる。A 児童館は他の児童館と比べ静活動に対する動活動の割合が多いことから、広さが十分であると分かる。K 児童館は動活動自体少なく、遊戯室でも静活動が多いことから、広さが不十分であると分かる。K 児童館は比較的広い遊戯室を持ちながらも動活動が少ない。

### 7. まとめ

児童一人当たりの床面積(便所等含む)は、A 児童館が約 16 m<sup>2</sup>、H 児童館が約 4 m<sup>2</sup>、K 児童館が約 3 m<sup>2</sup>となっており、A 児童館がのびのびと遊べる環境であることが分かった。スタッフ一人当たりの児童数は、3 施設とも 10 人程度となっている。児童の活動は、静的中分類 12、動的中分類 3 を確認することが出来た。3 施設とも登録児童数より利用児童数が少ない傾向にあることがわかったが、A 児童館の放課後のみ利用児童数が登録児童数を上回り、自由来館があることが分かった。3 児童館とも 3 室以上を利用して運営しており、1 室が動活動が行われる場となり、それ以外の室が静活動の場として利用されることが分かった。A 児童館のように施設に余裕がある場合では、勉強と食事を行う室をわけて運営することでできおり、児童館としての運営もできる。

参考文献 細田智久 島根県松江市 4 小学校における放課後子ども教室の拠点確保別の活動実態に関する研究、日本建築学会計画系論文集第 77 巻、第 673 号、pp. 501-509、2012. 3

本研究の調査に際し多大な御協力を頂いた各施設のスタッフの方々へ心から謝意を表します。

\* 米子工業高等専門学校 専攻科  
建築学専攻 1 年  
\*\* 米子工業高等専門学校  
建築学科・准教授・博士(工学)

\* Student, Advanced Course of Architecture, Yonago National  
College of Technology  
\*\* Associate Professor, Dept. of Architecture, Yonago National  
College of Technology, Dr. Eng.